

NEWSLETTER

NO.15

10 JUNE 95

- | | | | |
|-----------------|-----|-------------------------|-----|
| ・巻頭言 | (1) | ・1995年3月卒業生の就職先 | (5) |
| ・教室をめぐる動き | (2) | ・地理学専攻卒業生に対するアンケート調査の結果 | (5) |
| ・教員の研究活動 | (2) | ・昨年度(1994年度)地理学教室予算 | (8) |
| ・非常勤講師の先生から | (3) | ・主要購入備品のリスト | (8) |
| ・1994年度卒業論文主題一覧 | (4) | ・1995年度教員在室時間割 | (9) |

巻頭言

地球環境保全、世界の遺産保護と地理学

地理学専攻主任 瀬戸玲子

地球環境問題が浮上している。オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、熱帯林の減少、野生生物の減少、海洋汚染などである。発展途上国の人口急増による食糧増産のための耕地の拡大、熱帯林の伐採が進み、先進国の経済発展のためエネルギーの生産・消費の増大が地球温暖化を招いている。地球環境保全のため、国の機関(国立環境研究所、国土地理院ほか)や学術会議で気候変化や土地利用・土地被覆の変化についての研究が取り上げられている。農業地域、林業地域、都市地域について環境変化のモデル作成、全地球を同一スケールで数値化したデータベース作成、これらを動かす地理情報システム(GIS)の技術開発などである。地理学は古来、自然環境を構成する因子である気候、地形、土壌、植生、水文等と、人間生活、人間活動のかかわりを扱ってきた。ゆえに環境変化に及ぼす要因の選定、サンプル地域の適切な選定、各地域の土地利用現況の把握、過去から現在に至る変化の実態についての地誌的知識の活用において果たすべき役割は大きい。

ユネスコは1972年、世界遺産委員会で、世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約を採択した。地球上で保存すべき自然遺産、文化遺産、この2つの複合遺産を、国際的な監視体制を敷いて破壊から守ろうということである。条約加盟国から推薦された対象物を世界遺産委員会で認定し、世界遺産リストに登録している。日本も1992年に批准し、文化遺産として法隆寺、姫路城、京都の文化財3件、自然遺産として白神山地、屋久島が指定されている。自然遺産のうち自然植生特に森林の減少は地球環境保全問題そのものである。文化遺産もその立地する環境と切り離しては考えられない。地球の、人類の貴重な遺産の保護の問題にも、自然と人文のかかわりを扱ってきた地理学の知識の活用、地理情報システムの利用が期待される。

ユネスコはエジプト、ナイル川上流のアスワンハイダム建設により水没することになった遺跡救済を全世界に呼びかけ、アブシンベル神殿の移設をしたり、ジャワ島のボロブドール遺跡の修復工事などを行ってきた。アジア最大の文化遺産といわれるカンボジアのアンコールワットにも技術調査団を送っている。アンコール諸遺跡は、ここが内戦の戦場となったこと、宗教的背景からの仏像破壊、戦時中の保存事業の中断など、人為的要因による破壊が大きい上、自然条件からの問題も大きい。熱帯サバナ気候の、高温で雨期と乾期の交代する気候条件、氾濫原の軟弱地盤、れんがやラテライトのブロックあるいは遠方から運んできた砂岩を積み上げただけの建造物、亜熱帯樹の旺盛な成長力のため、建物の崩壊がはげしく、石材上の天女の浮き彫りなどがバクテリアの繁殖により急速に剥離・風化している。インドやドイツ人技師が指導して修復作業をしていたが、きれいになりすぎて風情がなくなってしまう一方、自然のまま放置すればどうなるかと手をつけずに残されている寺院では、植物が建造物に覆いかぶさり、スポアン(榕樹)の根が建造物上や隙間に入って、その破壊力の強さに驚かされた。

地球環境保全、世界の遺産保護のために、地理学はもっと声をあげ、地理情報システムのデータ蓄積と利用法の研究をすすめ、教育を普及させることが必要であろう。

教室をめぐる動き

この4月に次の人事発令がありました。

<非常勤講師の新任>

田中恭子先生(本務校 埼玉大学) 外国地誌(環太平洋地域)、地誌学

山口幸男先生が本務校の都合で急に退職されることになったため、教養部の岡島建先生に都市地理学をもっていただくことになりました。

隔年開講だった民俗学研究と文化人類学研究は、本年度から長沢利明先生に毎年開講していただくことになりました。

教員の研究活動

長島 弘道 教授

<研究活動>

口頭発表:

地力維持・土づくりの現状と課題、日本地理学会農業地理研究グループ、筑波大学、1995年3月

瀬戸 玲子 教授

<研究活動>

論文:

関東地方における昭和40年(1965)～60年(1985)の市区町村別通勤人口分布の変化(1)―主要都市への通勤人口― 地図32-2 p.18~27 1994

関東地方における昭和40年(1965)～60年(1985)の市区町村別通勤人口分布の変化(2)―東京都特別区部への通勤人口― 地図33-1 p.14~29 1995

口頭発表:

昭和40年(1965)～60年(1985)における東京都特別区部への通勤人口分布の変化 日本国際地図学会
平成6年度定期大会 駒沢大学 1994年7月

委員会活動:

1992年4月～ 日本地理学会、国立地図学博物館設立推進委員会委員

1994年9月～ 日本学術会議、地図学研究連絡委員会委員

野口 泰生 教授

<研究活動>

論文:

日最高・最低気温の永年変化に与える都市化の影響、天気、41(1994), 123-135.

生活と環境: ジオグラフィックアプローチ(川合元彦・野口泰生共編著)、技術書院(1994)

気象官署所在都市の温暖化と気温の永年変化における最暖・最寒値、国士館大学文学部紀要、27, 25-58.

書評:

太田堯編「学校と環境教育」(東海大学出版会)、地理39-1(1994)

住明正著「地球の気候はどう決まるか?」(岩波書店)、地理39-5(1994)

日本生気象学会編「生気象学の事典」(朝倉書店)、地理学評論67(1994)

福島達夫「環境教育の成立と発展」(国土社)、地理39-8(1994)

平野弘道「繰り返す大量絶滅」(岩波書店)、地理39-10(1994)

「地理学評論67-8(1994)都市気候研究特集号」、地理40-2(1995)

日本農業気象学会編「平成の大凶作」(農林統計協会)、地理40-05(1995)

口頭発表：

都市とその周辺地点との気温差の時間的・地理的变化について、日本地理学会春季大会、明治大学(1994年4月)
気温の永年変化に含まれる都市化成分以外の地域的特性、日本地理学会春季大会、筑波大学(1995年3月)

長谷川 均 助教授

＜研究活動＞

執筆活動：

『卒業論文作成マニュアル』、正井・小池編、古今書院、1994年9月。

(執筆分担：「リモートセンシングデータの解析」、「粒度分析」)。

『手結サンゴ調査報告書』、財団法人海中公園センター、1994年3月、執筆分担(「大手の浜」
の浅海底地形と堆積物について) 1～28ページ。

『白保のサンゴ礁』WWFネイチャーシリーズ②、(財)世界自然保護基金日本委員会、1995
年1月、執筆分担(「サンゴ礁は変化する」26～27ページ)。

学会発表：

「石垣島名蔵川低地とマングローブ林の形成過程」、日本地理学会春季学術大会、

1995年3月30日、筑波大学。藤本潔、山内秀夫、目崎茂和、長谷川均、前門晃の連名。

内田 順文 講師

＜研究活動＞

論文：

「都市のイメージと都市群システム」 石水照雄編『都市空間システム』古今書院、46-57頁、1995。

「推理小説の中の場所——金田一耕助の活躍する世界」

杉浦芳夫編『文学 人 地域——越境する地理学』古今書院、1995。

＜学会活動＞

日本地理学会秋季学術大会(於名古屋大学)において、初めて座長を務めました。

非常勤講師の先生から

岡島 建

本学教養部に2年前に着任した、一般教育の地理学担当教員ですが、文学部の一般教育科目を担当していないため、本年度の都市地理学の講義が文学部での初めての担当となりました。専攻分野は、歴史地理学、経済地理学、都市地理学。主な研究テーマは、水上交通の近代における役割で、代表論文は次の通りです。

「近代東京における都市内水運について」 人文地理41-6, pp. 1-23, 1989。

「近代都市における水運利用について——名古屋の事例を中心として——」 歴史地理学154, pp. 1-17, 1991。

研究室は、鶴川校舎の11号館にあり、世田谷での講義の際(水曜日の午後から夕方)には主として10号館の講師控室にいますが、地理学の研究室に出入りすることもあるでしょう。鶴川の政経・法学部の地理学の講義と、世田谷では都市地理学の他、工学部留学生向けの授業と工・政経Ⅱ部の地理学の講義を担当しています。

相談に乗れそうなことがありましたら、遠慮なく声をかけて下さい。よろしく。

1994年度 卒業論文主題一覧

- 1 奥川 進 奈良県橿原市今井町における町並み保存
- 2 山崎 健司 多摩湖および狭山湖周辺部における気温分布について
- 3 肥留間広幸 都市近接地域における農地の実態―埼玉県川口市・新郷地区を例として―
- 4 内山 仁志 衛星都市・埼玉県川越市の住宅地における土地利用変化
- 5 井深 敦史 小学生の日常生活空間の構造について
- 6 加藤 圭子 多摩ニュータウンにおける駐車場の確保
- 7 鈴木 暢人 神奈川県藤沢市における酪農経営
- 8 川口 真一 神奈川県三浦市におけるメロン栽培
- 10 伊東 恭子 風景評価に関わる要因について
- 11 古渡 秀幸 茨城県石岡市における都市気候の研究―特に地上構造物と気温分布との関係について―
- 12 斉藤 大輔 長野県佐久市における土地利用状況とそのパターン化について
- 13 内藤 麻緒 都市化による埼玉県北東部の変化
- 14 会田 智子 東京都における墓石の形態について
- 15 上野 義孝 八王子・武蔵野市における緑地保全政策
- 16 鈴木恭ノ介 横浜市におけるコンベンション都市づくり
- 17 千葉 哲志 房総半島小糸川における穿入蛇行と基盤地質との関係
- 20 村松 篤盛 三重県における帰属意識からみた地域区分―三重県は東海か、関西か―
- 21 杉本 光男 水環境改善のための行政政策と地域住民の意識―浜松市佐鳴湖を事例として―
- 22 溝口 光 成田市における宿泊施設の特色について
- 24 押田 大助 埼玉県寄居町における養蚕業の衰退―養蚕からの転作―
- 25 渡辺 智昭 住宅地域と公園緑地における気温分布等について：東京都世田谷区砧公園周辺を例に
- 26 丸山 園子 東京都千代田区神田地域における駐車場の分布と立地変化
- 27 金子 正昭 東京都足立区千住地区における土地利用の混在構造
- 28 杉野 満夫 臨海部産業地区の局地気候：東京都大田区埋め立て地の気温分布を例に
- 29 保竹 真幸 ロードサイドショップの現状と今後の展開について
―静岡県沼津市・富士市・富士宮市を例として―
- 30 石川みつる 東京都八王子市における道路整備について
- 31 片平 慎一 都市河川の水質と自浄作用について―神奈川県境川を事例として―
- 32 赤坂 桃子 青森県小川原湖周辺の砂丘の分布と形態―近年の砂丘の変化とその要因―
- 33 中園 亮平 バス交通による結節システムのネットワーク分析―横浜市営バスを例として―
- 36 大間知 裕 住宅団地の気温分布：静岡県安倍口団地を例にして―
- 37 清水 修治 河川の水質と土地利用の変化―綾瀬川と元荒川の水質の違いについて―
- 38 大鹿 公徳 国道129号線沿いにおける気温・湿度分布：厚木市戸田を例に
- 39 及川 忠久 千葉県内における都市人口からみた都市化と人口の特性
―市域全体と中心部の人口増減の違いを利用して―
- 42 神原 司 日系人社会の形成と地域住民との交流―群馬県邑落郡大泉町を例に―
- 43 安藤 達志 三菱浦和レッドダイヤモンズが浦和市に与えた影響
- 44 栗山 透 横浜の都市気温の影響による横浜横須賀道路の気温変化について
- 46 田村 寛子 身近にあるコンビニエンスストアの現状とその配送ルートについて
―埼玉県大宮市及びその周辺の市にて―
- 47 森下 真澄 浜松地域テクノポリス建設と成果
- 48 照井久美子 流域・沿岸の人口構造物が海浜堆積物に与える影響―相模湾沿岸を例に―
- 49 野口 光博 埼玉県南部に広がる見沼田圃の土地利用と見沼代用水の水利用の変化
- 50 神長 真哉 群馬県における緑地保全区域の現状
- 52 鈴木 淑夫 河川が周辺地域の気温分布に与える影響
- 53 岡部 伸介 茨城県日立市におけるヒートアイランドと工場の及ぼす影響について
- 54 星崎 貴之 神奈川県小田原市のJ R小田原駅周辺市街地の気温分布：
小田原城跡公園のクールアイランド効果について
- 55 三上 功 街路樹を伴う道路周辺の気温分布について：夏季・晴天日における街路樹の気候緩和効果

- 56 松原 賢宏 新潟海岸の侵食について
 59 谷 紀史 都市景観行政とまちづくり
 61 鈴木 裕介 ロードサイドにおけるファミリーレストランの立地と要因－国道1号線と246号線沿線を例に
 62 岩崎 泰之 街の顔、憩いの場としての駅前広場の研究と考察「神奈川県東部地域を例に」
 63 二宮 敏彦 J R相模線沿線における人口および宅地化動向
 64 白井 謙志 駅前商業地の開発及び整備状況と地価価格の関係（横浜の第二都心と3つの副都心を例に）
 65 柳原 哲也 神奈川県下の市街地における樹木景観について（保存樹木を指標として）
 67 今村 一郎 埼玉県大宮台地に分布する谷の谷壁侵食について
 68 川野 貴義 千葉県のヒートアイランドと気温低下の違い
 70 高橋 一徳 神奈川県湘南海岸における砂防林床の植生分布
 72 林田 泰文 「湘南」イメージにみる空間認知とその要因について
 104 沼田 典子 神奈川県横浜市における児童のスギ花粉症と自動車大気汚染との関係
 107 武田 寿樹 都市公園緑地が周辺市街地の気温分布に及ぼす影響について：
 山形市における霞城公園を例として
 108 杉山 哲基 茨城県鹿島灘海岸南部における人工構造物による海浜変形について
 711 石崎 裕 赤石山地東部山伏岳付近の線状凹地・山頂小起伏面の特徴と成因について
 717 中川 清一 東京23区における人口高齢化の地域的考察
 719 海野 敬 宗谷丘陵南部、豊富付近における周氷河性波状地形の分布条件
 723 新村 修 中心市街地および商業地の活性化事業の成果と類型化
 724 羽生 貴光 茨城県つくば市における芝農業－生産需要について－
 726 加藤 良一 神奈川県綾瀬市における養豚業

以上 66論文

- ・3月におこなわれた全国地理学科卒業論文発表大会では、村松篤盛さんと石崎 裕さんが発表しました。
- ・1986年以降に審査された卒論のなかから、優秀なものや資料的価値の高い論文は製本され公開されています。年度別、分野別に製本された卒論は第2研究室で閲覧できます。

付：1995年9月卒業予定者論文主題

- 58 石川 太郎 狭山丘陵宅地造成跡地におけるガリー侵食と未固結堆積物との関係

1994年3月卒業生の就職先

ここに示したデータは、学生から教室に報告された就職先です。業種、職種が特定できないものも多いので、1月現在の就職決定先の名称だけを掲載しました。

ナカノ・コーポレーション 倉持測量 バーンズ(測量設計会社) 太陽整備 三井生命 住友生命
 東京カートグラフィック 朝日航洋 ニッカントラベル 大谷建興 武揚堂 亀井工業 協振技研 佐藤技術
 三重県立上野商業高校 三鷹市立第6小学校 Big Egg 家庭教師エージェント トヨタ工機
 静岡県庁 浦和市役所 小田原市役所 東京舗装工業 青山商事 茨城スバル GET 大洋製鋼 エイケン
 不二総合コンサルタント

地理学専攻卒業生に対するアンケート調査の結果

(1995年3月卒論公開口頭試験後に実施)

1. 地理学教室への要望、その他(たとえば、卒論の手引きの使い方、論題の決め方、指導の仕方、等)について書いて下さい。

- ・パソコンが増えてうれしい反面、デスクの置いてあるフリースペースがせまくなったのが少し悲しいです。卒論の指導は、特に自然系やパソコンetc. コンピューターを使うものは早くからの指導の機会を与えてほしいな

ーと思います。

- ・地理学会費をもう少し安くしてください。
- ・冷房を入れてほしい。卒論に対するよゆうがほしい。選定時間、2つぐらい調査ができる時間を与えてほしい。
- ・「卒論の手引き」はとても役に立ちました。
- ・設備の充実、講義の充実、システムを改良する（履修登録の前に講義をうけれるようにする）、学校全体のイメージをかえる。
- ・人文地理用の卒論の手引きを作製してほしい。ハードウェアを購入するのはよいが、学生の居場所は残した方がよいのでは。
- ・地理学専攻の中でさらにコースを設けて2年次から専門のコースを学ぶようなシステムがよいのではないかな。卒論の指導に関しては充実したものだった。
- ・授業の履修届けは1度授業を聞いてから履修するか、しないか決めれるようにしてほしい。
- ・卒論の指導は大変よくやっていただいた。ゼミを開始するのが3年の前期からの方がよかった。
- ・研究室を広くしてほしい。教室の平いすを個人で座れる立派ないすにしてほしい。主事の頑固さを何とかしてほしい。捜査困難な誰もがど素人が簡単に仕えるものにしてほしい。最近の事例でためになり、興味をそそがれるような授業を…。
- ・1、2年で専門科目を多く取れないことで、4年間といっても実際に卒論に必要な講義が3年に集中してしまうことで時間的に損をしている。1、2年で何かやってみようとする、独学でやるのとあまり変わらない状況になってしまう。
- ・人文分野と自然分野の卒論の手引きを2つに分けてほしい。
- ・課題研究を3年の後期からではなく、もっと早くから指導していただきたい。卒論の論題は個人ではなく、グループでやれるテーマもあるので、そういう卒論もあっていいと思う。U先生の毎週1回論文を読んでレジュメを作り発表するのは大変だった。
- ・卒論の手引きは大変参考になりました。ただ、私はワープロでの卒論作製手引きの存在を提出直前まで知らなかったの、全員に行き渡るようにしてほしい。
- ・ニューズレターの内容充実、先生たちの話題、プロフィールとか最近のことなど、もっとくだけてたりして身近であってもいいと思うし、回数も増えてもいいのではないのでしょうか。
- ・卒論の手引きの人文用、自然用分けた方が良くと思う。
- ・少々細かすぎる。
- ・国士館大学の地理学教室は、日本一といっても過言でしょう。教職課程の内容が不十分です。
- ・ニューズレターであればみてしっていたのにもかかわらず、卒論の文章をかきだすのにおくれ、あわてた。ちゃんとやりたかった。もっとはやくやればよかった。
- ・クーラーを設置してほしい。地理学専攻のみの憩いの場をつくる。
- ・地理学教室の役員はがんばっていると思うが、公選にしたほうが良いと思う。
- ・いろいろと設備が整いつつあると思う。パソコンを増やしてリモートセンシングの授業等で少なくとも2人に1台になるくらいにしてほしい。うちの地理学教室は他の大学（立正、明治）よりも新しいことに積極的であると感じる。指導の仕方は先生にもよるので、自分にとってよい先生を選択すれば問題ない。
- ・野口先生へ、せっかく先生が編集して下さった卒論の手引きを有効に利用できなかった自分に恥じております。
- ・器材をじゃっかん増やしてほしい。
- ・良い。
- ・できれば研究室のシステムを1年前に入れてほしかった。
- ・ゼミを2年からはじめてほしい。3年の後半と4年の前半は就職活動で卒論をやっているひまがあまりないので、時間的余裕のある2年からゼミを行ってほしい。
- ・ゼミの開始をもっと早めにしてもらいたい。卒論の手引きをもっと充実させてもらいたい。
- ・自然系では生物に関する講座を増やしてほしい。
- ・今のままでよいと思う。
- ・自分の興味のあるテーマで書くことのできる論文がいきなり卒論というのは、私だけかもしれないけれど、けっこうしんどい。巡検でのレポートのテーマにもう少し自由がほしかった。
- ・統計パッケージ「SPSS-PC」を数量化Ⅰ類～Ⅲ類のオプションプログラム付きで研究室のパソコンに導入してほしい。
- ・ゼミは3年のはじめからあったほうがよかったと思う。
- ・レポートなど書く度に提出ぎりぎりまで、ただ考え込んでしまうだけの私から言えることは、調査研究したい

ことを早く決め、資料収集に力を入れると同時に進行で整理し、思いついたことをすべていったん書き集めた上で、さらに文章を成り立たせるために整理を重ねていったほうがいいのではないかとしか言えません。

- ・自分の一番良いと思うことをやれ。なんでもいいんだ。
- ・春休みや夏休みに卒論のことで指導していただいたことに感謝しています。
- ・長島先生ありがとうございました。
- ・ゼミは3年の最初からにした方がいいと思う。あと、リモセンのパソコンが増えた。これはうらやましい。学会費は学費に含めるべし。
- ・もう少し早く、ゼミが始まっていいと思う。卒業論文の添削指導は早めに出した方がいい。また、わからないことがあったら、先生に質問するように心がけるといいでしょう。
- ・リモートセンシングの授業でパソコンの少なさを実感しました。
- ・とりたい科目を好きな学年でとれるようにしたほうがいいと思った。
- ・研究室にある資料をもっと見やすくしてほしい。先生がいけないときは見ることができないし、いっても会議中だとやはり見ることができない。これでは必要な資料を必要なときに入手できないので、ぜひ改善してほしい。
- ・卒論指導を始めるのが他の専攻より遅いため、テーマの選定など時間が少ない。
- ・研究室がもっと広いといいです。リモートセンシングの授業の時は大変でした。
- ・測定の設備をもっと充実してほしい。
- ・地理教室は1、2年生には入りにくい雰囲気にあるので、もう少し明るいイメージにするなど、努力した方がよいのでは？先生方には卒論指導はもう少し時間を多くとって頂いた方がよいと思います。私みたいにならないように…。
- ・自由にみんなが部屋を使えればいいと思います。先生方には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。
- ・研究室の外のロッカー（02番）をかえてほしい。

2. その他（後輩たちに一言など、好きなことを書いてくださって結構です）

- ・卒論は計画的に、よゆうをもって、見直し3回っていうところでしょうか。
- ・卒論は先手必勝。
- ・卒論のテーマははやめに決めた方がよい。
- ・ゼミの先生の助言はとても参考になるので、つまづいたら相談するのがよいと思います。
- ・卒論、就職活動はよゆうをもってやる。時間を大切にする。
- ・Dataの収集は夏休みからでも遅いくらいだ。私は11月になって後悔したぞ。先生との接触は非常に大切。
- ・卒論は一生懸命すると、楽しいものになります。
- ・卒論を一夜づけとは言えないけど、短時間でやろうとする考えを起こさず、長時間かけてすることをおすすめします。
- ・2年3年のうちに卒論に発展できるような実験を行って失敗してみると、その経験を活かせると思う。
- ・鎌ちゃんがんばれよ。
- ・生協を作ってほしい。主事制度を廃止してもいいと思う。
- ・就職先を紹介してください。
- ・たいむいずまねえ、アクティブにいこう。
- ・がんばって下さい。
- ・地理の勉強（コンピュータ）ばかりやらないで、もっといろんな世界を見た方がよいのでは。
- ・マニアが集う内田ゼミへ入ろう。ただし責任は持てないよ。長谷川先生のゼミのおさを断ってたいへん申し訳ございませんでした。長谷川先生のように、おもしろく、そして解りやすい授業ができる教師を目指します。
- ・そつろんをがんばってね。
- ・卒論は早めに余裕を持って取り組むこと。
- ・がんばって卒論を書いてください。
- ・卒論は早めに準備を。大学時代にいろいろなところへ旅に出よう。何かこれは人に負けないというものを見つけられるようにしよう。
- ・講師の水野先生はとてもエッチなので、女の子は注意して下さい。
- ・今後は精進してがんばってってもらいたい。
- ・がんばれ。
- ・好きなテーマで新しいことをやろう。

- ・卒論も就職活動もできるだけ早くはじめた方がいいぞー！
- ・何度も言われていると思いますが、卒論のテーマは早く決めた方がいいです。
- ・早めに始め、指導者を信頼して、指示を有効に生かしてもらいたい。
- ・様々なことにキョウミを持って楽しんで勉強してほしい。色々な所へ行って、色々なものを見たほうがいい。本などからだけでは見えないものを見て、考えることができると思う。
- ・留年するのも悪くないものです。
- ・誰にも負けない『何か』を学生時代のうちにぜひ見つけて下さい。ここまで学生できたのも、みなみなさまあってこそ、どうもありがとうございます。
- ・卒論は12月9日に提出するのがエレガントってもん。12月10日はもちろん、早すぎる提出もダサダサだ。
- ・主事ってヒマソー。ヒマなんだから本当は、いっつも何やってんの。卒論のテーマは4年で決めるのは遅すぎるぞ。ちなみにオレは4年の7月だった。その結果、地獄を見たぞ。
- ・卒業論文は早くテーマを決め、早く始めよう。行政がらみの資料はものによっては手に入れるのに時間がかかるものがある。
- ・先生方、友達、先輩後輩、自分が興味を持つ専門分野の機関の人、などあらゆる方々と接して、いろいろなことを話し合えるようになって、大切にしていって下さい。
- ・卒論は早めにはじめたほうがずっと楽だと思う。
- ・何？卒論？余裕。
- ・何といっても卒論ははやめにはじめよう。これに限る！
- ・あとで悔いのないよう、やるべきことは早めにコツコツとやっていくといいと思います。
- ・卒業へ向けてガンバッテください。
- ・ステキな大学生活を過ごして下さい。
- ・休みの時などにある巡検にはなるべく参加した方がいいと思います。先生方やクラスメートの意外な一面を見えます。もちろん勉強にもなります。
- ・興味があるものを見つけてそれを生かすようにがんばって下さい。
- ・卒業間近になって研究したいことがたくさん出来、もっと早くから（1、2年生の頃から）多くの地理に関する文献や資料に目を通し、知識をたくわえていればよかったと後悔しています。私のようにならないように。
- ・ゼミは先生との相性です。これで1年半苦しむか楽しいものになるか決まります。
- ・卒論の口頭試験を甘く見るべからず。
- ・基本的に大学は楽しむ所だから、できる限り遊びなさい。卒論も早めに始めた方がベストですが、それぞれ集中できる時間とか期間があるから、自分のペースでやって下さい。
- ・私も何度もいわれてきましたが、やはり卒業論文は早く始めた方がいいです。

昨年度（1994年度）地理学教室予算

	1994年度	94年使用実績	1993年度	1992年度	備考
校費	853,000	851,671	1,149,000	885,000	92年度最終配分¥ 811,000
研究費	2,058,000	2,055,034	2,142,000	2,289,000	
特別実験費	4,240,000	4,226,940	3,296,000	3,552,000	
測量実習費	350,000	348,159	340,000	310,000	
合計	7,501,000	7,481,804	6,927,000	7,036,000	

研究室購入主要備品リスト（1994年度）

- ・セオドライト一式
- ・GPSレシーバ（JRC4400）
- ・赤外線放射温度計
- ・OHP
- ・パソコン一式
- ・反射実体鏡
- ・アスマン通風乾湿計×3
- ・デジタル表面温度計×2

1995年度 教員在室時間割

【凡例】

Na: 長島 Se: 瀬戸 No: 野口 Ha: 長谷川 Uc: 内田

————— : 講義中、 ————— : 在室、 - - - - - : 在室していることが多い、 後 : 後期開講

	校舎	9:00-10:30	10:40-12:10		12:50-14:20	14:30-16:00	16:10-17:40	
月	世谷	No —————						
	鶴川	Se —————	Ha —————					
火	世谷		Na —————					
	鶴川	Uc —————	Ha —————				後 —————	
水	世谷	Se —————			Ha —————			
	鶴川							
木	世谷		Se —————				後 —————	
	鶴川		Ha —————		Uc —————		後 —————	
金	世谷		Na 後 —————		※ No —————			
	鶴川		Ha —————					
土	世谷	Uc —————						

※第3または第2金曜日は教室会議(12:00-)・教授会(13:00-)があり全員が出校しています。

上記時間以外の面会、相談などはAppointmentによります。相談、質問などは教員の出勤中に済ませて下さい。

教員の自宅、特に非常勤の先生宅への電話は極力ひかえて下さい。

研究室の電話は、03(5481)3245 (長島・瀬戸・内田)・3246 (野口・長谷川)。

文献、機材の借出・返却は、貸出簿に記入したのち、在室教員のチェックを受け、サインをもらってください。